

Japan Medicine

CLINICAL & MANAGEMENT NEWS

株式会社じほう 購読申込み専用電話 03-3265-7660 ■ 振替口座 00180-8-900480番 【東京本社】〒101-8421 東京都千代田区一ツ橋 2-6-3 一ツ橋ビル(新聞事業本部) TEL03-3265-9351
購読申込みFAX ☎0120-65-7751 ■ 購読料 1年 47,880円(税込価格/送料当社負担) 【大阪支局】〒541-0046 大阪市中央区平野町 2-3-7 アーバンエース北浜ビル TEL06-6231-7061 (代表)

6/20 2008
Friday
No.1273
月、水、金曜日発行(祝日休刊)

CONTENTS

8 (Management view)

循環器専門病院
東海地区に専門病院が
相次いでオープン



今秋と来春、東海地区に循環器専門病院が相次いでオープンする。今年10月に名古屋ハートセンターが、来年1月をめどに岐阜ハートセンターが開院する予定。

3 (News Topics)

骨太方針08の素案
医師不足・救急対策へ
「道路財源」も

(News Topics)

広島県呉市

国保加入者に後発品使用促進で通知発送

切り替え時の窓口負担削減額を明記



すこやかセンターくれ

広島県呉市は増加し続ける国民健康保険の医療費を抑えるため、7月から「ジェネリック医薬品促進通知サービス」を開始する。通知には、継続的に服用している先発医薬品を、後発医薬品に切り替えた場合の患者負担削減額を明記。国保加入者に後発品使用による窓口負担軽減を呼び掛けるとともに、国保医療費抑制を狙う。同様の通知を導入している民間の健康保険組合はすでにあるが、自治体では全国で初めてという。 【2面に関連記事】

通知には過去のレセプトを基に、患者が処方されている先発品名や単価、数量、薬代(3割負担)が列記されており、先発品ごとに後発品へ切り替えた際に削減できる最少の金額が記載されている。市福祉保健部保険年金課によると、切り替えによる削減額は、後発品大手3社の製品のうち、最も高い薬価のものを採用し算出する。ただ、個別の社名までは盛り込まない。

さらに、切り替えによる効果が一

システムでは、保険者が持っている医科・調剤のレセプト情報を突き合わせ、後発品への変更で薬剤費が効果的に削減できる患者に対して直接通知する。市ではこれらの情報のデータベース化を進めており、特定健診・保健指導での活用なども検討していく考えだ。

今年度の削減額は3000万円の見通し

今年度は、システム運用費として

実際、2005年度の1人当たり医療費は、前年度より2万6000円増えて55万4000円となった。これは全国平均の1.4倍に相当する。

また、同市の医療費と全国の平均医療費を比べた地域差指数は、07年度の1.162から08年度は1.244にまで急上昇すると予想。地域差指数が1.17を超えた自治体は、医療費の6分の1を新たに負担しなければならず、一般会計からの繰り入れが課題として浮上する。市では現時点での

Management view

循環器専門病院

東海地区に専門病院が相次いでオープン

10月に名古屋、来年1月には岐阜にハートセンターが開院

今秋と来春、東海地区に循環器専門病院が相次いでオープンする。今年10月に名古屋ハートセンターが、来年1月をめどに岐阜ハートセンターが開院する予定。いずれも豊橋ハートセンター(愛知県豊橋市)を運営する医療法人澄心会(鈴木孝彦理事長)が母体となって展開するもので、同センターと同様、最新鋭の医療機器や高い治療技術を持つ循環器医師を配し、24時間365日対応の循環器専門医療を提供する。鈴木理事長は、「地元の先生や若い医師たちがやりたいというので支援することになった。患者さんのことを第一に考える医療を提供して、ぜひ成功してほしいと思う。そのために必要なノウハウは惜しみなく提供する」と話している。

名古屋ハートセンターは、ナゴヤドーム近くの名古屋市東区砂田橋1丁目に開設。病床数は64床。別法人の医療法人・名古屋澄心会が運営する。

一方の岐阜ハートセンターは、県庁近くの岐阜市藪田南に開設。こちらは豊橋ハートセンターと同じ澄心会の運営で、病床数は32床の予定。来年1月を目標に開院準備を進めている。

循環器救急の受け皿としての期待も

両センターとも、患者サイドに立った医療の実践を設立理念に、「やさしいまごころのある医療の実現」を目指す。診療科目は豊橋ハートセンターと同じ循環器科、心臓血管外科、内科の3科体制で、24時間救急にも対応する。

名古屋ハートセンターは、小牧空港の航路の真下に当たるため、ヘリポートの設置ができなかったが、岐



鈴木氏

阜ハートセンターには設置される予定だ。いずれも最新の循環器医療機器や動画ネットワークが導入される。

診療は基本的に予約制だが、紹介状なしの患者も受け入れる。医師の確保はすでにめどが立っており、名古屋ハートセンターの心臓血管外科には、元京都大心臓血管外科教授の米田正始氏などの就任が予定されている。

医師不足などにより、東海地区でも救急医療の不足が広がっていることから、地元ではその受け皿としての期待も高まっている。

将来は地域でCCUのネットワークを

循環器専門病院の先駆として、1999年に設立された豊橋ハートセンターは、心臓カテーテル治療などで、すでに全国トップクラスの治療成績を上げている。

検査、治療、手術の件数は年間約5000例(うち心臓カテーテル検査約3000例など)。ヘリポートのある

同センターには年間20回程度、ドクターヘリによる救急患者が搬送される。最近では、大学病院でも医師不足で24時間、循環器専門医を確保できないケースがあることから、救急医療においても、東海地区における同センターの役割は高まっている。

同センターでは、他院で治療困難といわれた患者にも治療対応するケースや、紹介状なしに来院する患者も多い。患者のQOLを重視し、カテーテル検査は日帰りが原則。カテーテル治療や心臓手術も、低コストの短期入院で済むように配慮されている。入院中のテレビ視聴をすべて無料にするなど、サービス面の充実にも余念がない。

さらに、チーム医療による高い治療技術を維持・向上させるため、東海地区の循環器専門医を中心としたライブデモンストレーションなどの研修会を開催する

など、治療技術の向上にも日夜努めている。

こうした地道な人材育成への投資も、今回のセンター新設につながったようだ。今後の展望について、鈴木理事長は「患者さんの立場に立った医療をすれば、採算なんてぎりぎり、正直、事業を広げようというような魂胆はまったくない。だが、地域のためには、ぜひ成功してもらわなければならない。今後はさらにネットワークの輪を広げて、地域でCCU(冠動脈疾患治療ユニット)のネットワークをつくっていききたい」と意欲をみせている。

